

体 育

1 全般的事項

問1 科目の名称及び編成はどのようになっているのか。

科目の名称については、スポーツが競技のみならず、身体運動や野外活動など幅広い概念として用いられている現状から、すべての科目が広義な意味でのスポーツに関する学習として整理された。これに伴い、各科目の名称は、現行の「体育理論」が「スポーツ概論」に、「ダンス」が「スポーツⅣ」に、「野外活動」が「スポーツⅤ」に、「体づくり運動」が「スポーツⅥ」に変更された。

また、科目の編成については、すべての教科で言語に関する能力の育成及び体験の重視が求められていることを踏まえ、「スポーツ総合演習」が新たな科目として設定されたことから、現行の7科目から8科目の編成となった。

改 訂	現 行
スポーツ概論 スポーツⅠ（採点競技及び測定競技） スポーツⅡ（球技） スポーツⅢ（武道及び諸外国の対人的競技） スポーツⅣ（ダンス） スポーツⅤ（野外活動） スポーツⅥ（体づくり運動） スポーツ総合演習	体育理論 体づくり運動 スポーツⅠ（採点競技及び測定競技） スポーツⅡ（球技） スポーツⅢ（武道及びレスリング） ダンス 野外活動

※括弧書きは科目名に含まれない。

問2 各科目の目標はどのようになっているのか。

スポーツの振興発展は、競技等のスポーツの実践者やスポーツ指導者の育成のみならず、「する、みる、支える」といった幅広い視点からスポーツの価値や意義が認められ、より多くの国民がスポーツの振興発展を支持することで図られるものである。また、専門学科「体育」においても、卒業後の進路は多様化しており、体育系の大学等への進路に加えて、様々な進路の選択がみられる。

こうした現状を踏まえ、各科目の目標においては、「生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる」ことが示された。

2 科目に関する事項

問1 「スポーツ概論」の目標や内容はどのようになっているか。

「スポーツ概論」は、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力の育成を図るため、スポーツを実践するだけにとどまらず、広く文化、経済、教育などの側面からとらえ、スポーツ科学の研究成果を踏まえた教養を身に付けることを目指し、現行の「体育理論」の名称を「スポーツ概論」と改めた科目である。

目標は、体育科の目標の改善を踏まえ、「スポーツについての総合的な理解を通して、その知識を運動の主体的、合理的、計画的な実践に活用できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる」ことに改められた。

また、内容は、指導内容の体系化に伴い、各科目で学習することが効果的な知識は各科目で学習することとし、各科目に共通する内容やまとまりで学習することが効果的な内容に精選した上で、次の5つの内容に整理統合された。

- (1) スポーツの歴史・文化的特性と現代の特徴
- (2) スポーツの効果的な学習の仕方
- (3) 豊かなスポーツライフの設計
- (4) スポーツの指導法と安全
- (5) スポーツの運営及び管理

なお、内容の(1)～(5)をすべて扱うとともに、指導に当たっては、内容に関連した課題研究や実習などの知識を活用する学習活動を適宜扱う必要がある。

問2 「スポーツ総合演習」の目標や内容はどのようになっているか。

「スポーツ総合演習」は、課題研究を通して、知識・技能の重要性を改めて認識し、情報の分析・評価、論述や熟考、評価などの言語に関する能力の育成に資することや、自らに適した生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現に向けた見通しを立てるとともに、スポーツと多様にかかわることのできる能力の育成を目指し新設された科目である。

目標は、「スポーツの専門的な知識や高度な技能の総合的な活用を目指した課題研究を通して、生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現及びスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる」こととされ、次の3つの内容から構成されている。

- (1) スポーツの知識や実践に関する課題研究
- (2) スポーツの指導や運営及び管理に関する課題研究
- (3) スポーツを通じた社会参画に関する課題研究

なお、内容の(1)～(3)までの中から一つ以上を選択して扱うことができ、指導に当たっては、「スポーツ概論」との関連を図り、実習、体験、発表等の探究的な活動を重視するとともに、言語に関する能力の育成を図る必要がある。